

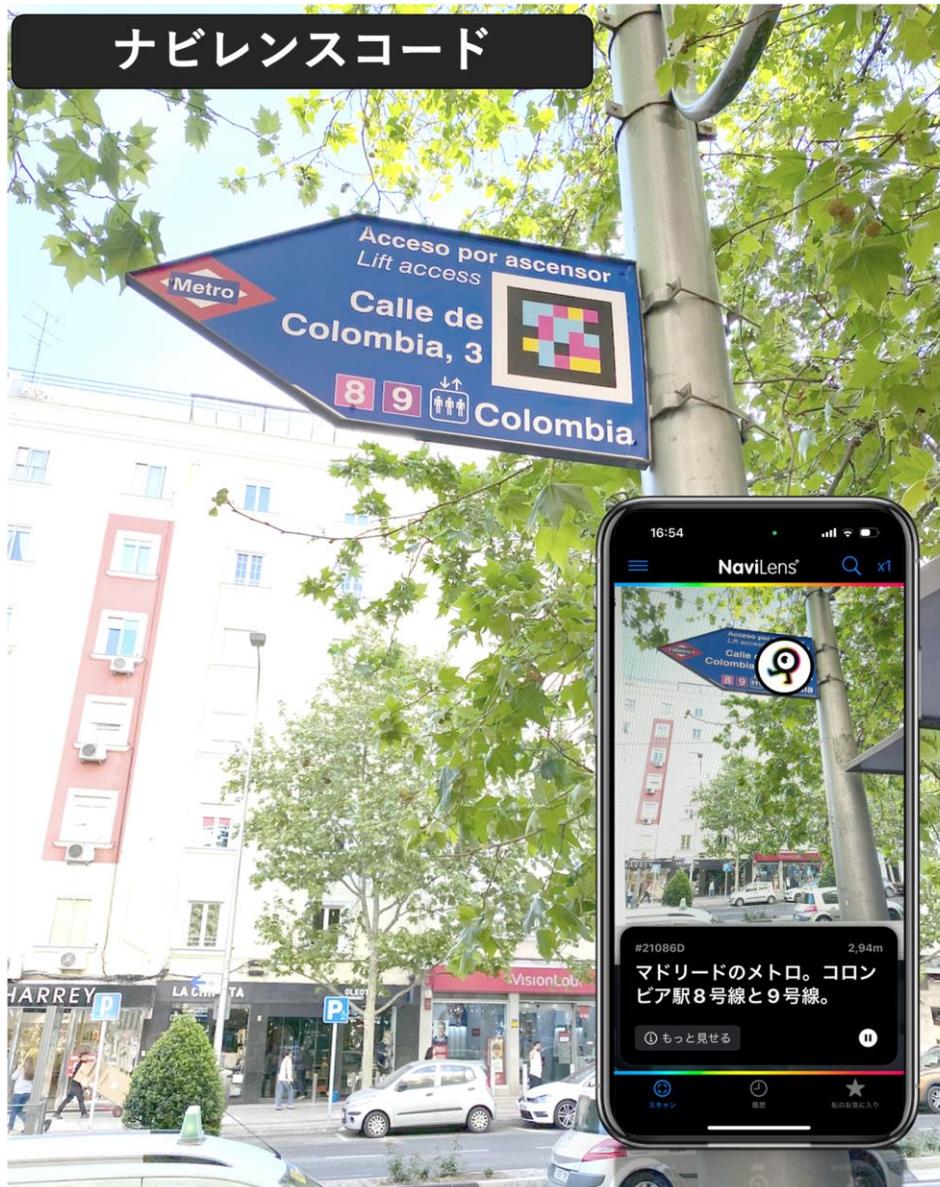
⑩ ナビレンス NaviLens

⑩ ナビレンス NaviLens (概要)

企業名	Nuevos Sistemas Tecnologicos S.L. dba NaviLens
機器・サービス名	ナビレンス
問合せ先	info/atmark/navilens.com(注)スパムメール防止のため「@」を「/atmark/」と表記していません。
機器・サービスの概要	視覚障害者ユーザーの移動支援や公共スペースでのアクセシビリティ向上を主な目的としたスマートフォン用無料アプリです。フォーカス不要、長距離から読み取れるコードをアプリで読み取ることで、位置情報や周囲の環境情報などを音声とサウンドで取得します。
機器・サービスの特徴	<p>1. 機器・サービスの機能</p> <ul style="list-style-type: none"> ● アプリを開き、周囲をスマートフォンのカメラでスキャンするような動作を行うことでコードを検出します。コードを真正面に捉えたりフォーカスする必要はありません。 ● コードを検出すると、コードまでの距離と挿入された情報を音声でお知らせします。続いてその位置を音声またはサウンドでお知らせします。 ● 屋内屋外に関わらず、コード検出、情報取得およびコードまでの案内が可能です。 ● 拡張現実技術を利用した360ビジョン機能で読み取ったコードをロックすることで、3Dサウンドを利用した直感的なガイドが可能になります。 ● アプリから無料のパーソナルコードセットが取得できます。様々な所有物や場所に個人利用のコードをつけて、すぐに日常的なアプリの利用が可能です。 ● ナビレンスアクセシブルQRコードを利用して、アプリでQRコードも簡単に開けるようになります。 <p>2. 情報アクセシビリティの配慮内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ナビレンスアプリは視覚障害者に向けて全ての情報を音声ガイダンスで提供します。また、好みや必要に応じて、コードの位置案内を音声、サウンド、ハプティック(振動)などで設定できます。 ● 多言語に対応しているため、異なる言語圏のユーザーも情報を自身のスマートフォンの言語で得ることができます。

⑩ ナビレンス NaviLens (概要)

ナビレンスコード



ナビレンスアクセシブルQRコード



⑩ ナビレンス NaviLens (概要)

<p>当事者ニーズを踏まえた開発</p>	<p>弊社アプリは、独自開発の2次元コードをスマートフォンのカメラで読み取り、情報を発信するものです。アプリで読み取る2次元コード「ナビレンスコード」の開発は、アリカンテ大学のモバイルビジョン研究所との共同開発であり、視覚障害があってもコード位置が特定しにくくても、コードにフォーカスしたりフレームに収めたりなどを必要とせず、また、正面からのみでなく広範囲な角度で長距離から素早く読み取れるコードです。</p> <p>ナビレンスアプリの開発には、企画の段階から弊社に所属していた視覚障害当事者が関わっており、またスペイン国立視覚障害者団体(ONCE)より密接に意見を聞きつつ設計開発が行われ、テストなどが行われました。最初の実証実験は、2017年ONCEが主催する視覚障害者のためのテクノロジー分野の主要な国際見本市の1つ、TifloInnovaで行われ、当事者体験から有用性が確認されています。また、ONCEはもとより、イギリス王立盲人協会(RNIB)、アメリカライトハウスギルドなど、さまざまな国にわたる視覚障害者団体の建物でコード実装が行われており、アプリ利用から当事者の要望、意見などが直接的に届きやすい環境に努力しています。</p>
<p>企業としての取組</p>	<p>標識や看板を認識しづらい視覚障害者は、経験のない環境下での自立的歩行が制限されてしまいます。それに対するソリューションを提供すべく、「視覚障害者に力を」という理念のもとテクノロジーの開発が行なわれました。</p> <p>さらには、より包括的な世界作りのため、ナビレンスアプリから派生して、「ナビレンスG O」というアプリも開発。手話ビデオやピクトグラム、簡易テキスト、移動に制限があるユーザー向けのアクセスルートなど、ビジュアル情報とともに発信できるアプリです。両アプリは同一コードで機能し、ユーザーのデバイス言語に準じて世界36言語での情報発信を行っています。</p> <p>両アプリの改善、新機能開発、コードの運用に関しての業務が弊社の主体であり、全ての社員が情報アクセシビリティに関して常々関わっているため、特にアクセシビリティチームなどは編成していません。ユーザーや関係団体などとのオンラインでの意見交換では、毎回トピックに関わる各部門のスタッフが参加し、直接的に当事者または関係者と関わっています。</p> <p>アプリの取得は完全無料で、ユーザー自身が個人的に日常生活で利用できるパーソナルコードや特定の公共施設で利用できるコードキットを無料で提供しています。</p>

⑩ ナビレンス NaviLens (審査結果)

1. 当事者・開発者の視点でみたときに、アクセシビリティ配慮として評価できる点

a. 製品が提供する価値

- 情報を効率的に得ることができ、様々な場所にアクセスしやすくなるソリューションである。
- 都市における生活を豊かにさせるという観点において、サポートを含めて有意義なソリューションである。
- アプリケーションで読み取るナビレンスコードは研究所との共同開発であり、広範囲な角度で長距離から素早く読み取れるために、利便性が高い。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- 読み上げ機能に対応している。
- 弱視者(ロービジョン)にも認識できる配慮がなされている。

2. 当事者にとって重要であるが、今後更なる配慮が期待される点(今後期待したい点)

a. 製品が提供する価値

- 2次元コード自体が、ある程度「この辺にある」といった情報がないと利用が難しいため、視覚障害者がナビレンスコードの位置を発見できるための周知といった環境整備が期待される。
- 外で使うものであるため、障害者が安全に使えるために、使い方の周知をすることが期待される。
- より普及し、利便性が高まっていくことが期待される。

b. 機能面でのアクセシビリティ配慮

- —

⑩ ナビレンス NaviLens (審査結果)

3. 当事者ニーズを踏まえた開発について、優れている点

- 企画段階から視覚障害者が関わっており、また、スペイン国立視覚障害者団体(ONCE)より密接に意見を聞きつつ設計開発が行われ、テスト等が行われている。
- 実証実験は当事者体験から有用性を確認し、イギリス王立盲人協会(RNIB)、アメリカライトハウスギルド等、様々な国にわたる視覚障害者団体の建物でコード実装が行われ当事者の要望、意見等を収集し改善をしている。

4. 企業としての取組について、優れている点

- アクセシビリティを専門にした職員のみ、又は専門チームのみで取り組むのではなく、全社を挙げて標準的にアクセシビリティについて取り組める環境を構築している。
- 「視覚障害者に力を」という理念のもとテクノロジーの開発が行われている。
- また、世界36言語での情報発信が可能であり、完全無料で公開している。